

「大切に思っている」と ぜひ子どもに伝えて



ETSUKO ARIE

有井 悦子さん

有井小児科医院院長

「有井先生が小児科医になられた当時と子どもたちを取り巻く環境は変わりましたが今のほうが30年前の当時より、子どもたちが生きづらくなっていると思いますね。子どもたちは、「自分は大丈夫」という、自分の存在に対する自信を持てず、不安を抱えています。

ただ、子育てを支える社会の体制は、昔に比べ育児休業制度などが整備され、乳幼児期に親が子どもと一緒に居られるようになりました。でもまだ育児休暇や看護休暇を取りにくい環境があります。制度を活用して、子育ての間はできるだけ早く家に帰るとか、一緒に過ごす時間をつくっていただきたいと思います。そのためには勤め先など周囲のサポートが必要です。

あしたのために

家庭教育新聞

FOR OUR FUTURE

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

時を越え美しくひと輝く
歴史都市・京都

Vol.175

平成19年(2007年)6月

発行：京都市教育委員会（生涯学習部家庭地域教育支援担当）
京都市中京区寺町御池 ☎075-222-3590 ☎075-222-2061
<http://www.edu.city.kyoto.jp/kateitiiki/>

P.2 3 特集 子どもたちの豊かな学びと育ちのために 家庭や地域で実践!!

●働くって!?まなびの街で体験学習
—京都市スチューデントシティ
・ファイナンスパーク



●やるぞ! おやじEXPO2007～おやじの会ダヨ!全員集合!～ 7/8

P.4 ●のぞましい公立高校入学者選抜をめざして
●門川大作教育長が衆議院で意見表明・答弁(教育再生特別委員会)

各地で子どもの命を軽視する事件が相次ぐ中、京都市では今年2月、子どもを健やかに育むための市民共通の行動規範として「子どもを共に育む京都市民憲章」を制定しました。今の子どもたちを取り巻く状況を、親はもちろん、地域や企業、専門家などみんなが共に考え、行動に移すことを目指しています。そこで、長年の「診療相談外来」などを通じ、子どもたちの姿を診てこられた小児科医・有井悦子さんにお話を伺いました。

「先生は二人のお子さんを育てられた母親でもあります。子育てをする上で大切なことは何でしょうか」

「一緒にいる時間をなるべくつくり、子どもの気持ちや意見を聴くことではないでしょうか。そして親が子どものことを「本当に大切に思っている」と伝えることがとても大事だと思います。

子どもによって、親にやってほしいと思うことはそれぞれ違ってきます。親が押し付けずに子どもに聴くことが大事です。子どもはちゃんと自分の答えを持っていますから。

子どもの傍にすることが大事で、顔を見れば子どもに「ああしなさい、こうしなさい」と指示しすぎたり、説教したりするのは控えてくださればと思います。子どもの方から話しかけられるように「隙」をつくるには、親もゆったりとした時間を過ごせるようにしたいですね。子どもと親が濃密に過ごす時間はとても大切です。

「子どもが困った行動をとった時に、親たちはどう対応すればよいのでしょうか」

子どもが親や大人にとって困った行動をする時は、実は子どもはもともと困っています。ですから、「なんでそんなことをするの?」と怒るだけではなく、子どもの話をよく聴いて、子どもが困っていることを知って手助けをすると信頼関係を築くチャンスになります。

ゆっくり接し、大切にされていくことが伝われば、どの子どもも好きなことを探して自分らしい道へ進むことを教えてくれました。そんな力を子どもたちは持っています。長年、医師として多くの子どもたちと出会ってきて、「子どもたちが、秘めている力」の素晴らしさを実感してきました。

「市では「子どもを共に育む京都市民憲章」を制定し、「子どもの存在を尊重し、かけがえない命を守ります」など6項目の行動規範を定めましたが、この市民ぐるみの取組について、どのように見られますか」

この「市民憲章」が制定されたことを本当に喜んでいきます。内容は、ごくふつうのことです。皆で知恵をしぼって子どものために考え、行動し支える、そのふつうのことができていないのが現実なのですね。けれども、市民憲章として掲げること、企業も含め地域のみんなが、具体的な指標にして日常生活に生かす

●7月31日、地域教育フォーラム・イン京都(詳細は4面参照)の第2分科会で、有井先生が「子どもが“ちから”を発揮する暮らし」をテーマに講演します。

ていく役割を果たせるのではないのでしょうか。そのことで、子どもが直面している困難な問題が解決できたり、改善されることを期待しています。その内容、取組を市民に広く知らせ、ともに動いていきたいですね。

最後に、先生が思われる子育ての支援についてお聞かせください

今の若い親御さんの多くは、子育てについて祖父母に教わることもなく、手助けしてくれる人も少なく、子どもと接した経験もなく、子育てを習う機会がありません。義務教育の間に育児の要点を学ぶと、将来の自身の生きる力になり、子育てを安心して楽しめるのではないのでしょうか。その必要性を痛感しています。

◎プロフィール

有井小児科医院院長。京都小児科医学会子育て支援委員会委員長。一般外来のほか予約制の外来も行い、子育ての中で起こる親の悩みや不登校・家庭内暴力などの子どもの困難についての診療相談に携わっている。



診療室に掛けられている、先生が大切にされている言葉